

- ・追加・変更箇所は**赤文字**で表記。改訂日付は最新のみを記載。
- ・このメモから、ご自身の必要箇所を楽譜に転記するなど有効活用して下さい。

初版 2024/11/05

改訂 2025/04/01

【椰子の実】 変更と注意事項

<曲を通じて>

・演奏方針：

メリハリをつける。特に 18 小節からのメロディは、13～17 小節の伴奏の流れから切り替えて、バシッと歌う。

22 小節は「p」の表記があるが、「mf」のままとする。

・曲想：走らず、焦らず、煽らず、ゆったりと奏でる。

<全体事項>

- ・**指揮をよく見て。自分の気持ちいいテンポでは歌わない。**
- ・**気持ち高め高めに音をとる。正しい音程の範囲の高め。**
- ・**同じ音が続く/出し易い音域は、強く意識して丁寧に音をとらないと必ず下がる。**
- ・**苦手な箇所の克服を（過去の指摘の再点検）。**
- ・**前半と後半で似て非なるフレーズあり。楽譜を再点検し正確に。**
- ・**この曲は縦に品よく歌う。日本語が粗い。横に開きすぎない。**
- ・**ブレス NG 集。**

単語の途中 不揃いなタイミング **ブレス前の音符が短くなりすぎ**

必死にブレスする吸気が目立つ など

- ・歌詞フレーズの出だし（「ながれよーる」や「なれはそも」など）は情感を込めて抑揚をつける。
- ・全パート互いに聴きあっていない。クラシカルな曲は、目いっぱい神経とがらせデリケートに音程をとる。
- ・他のパートのみの練習時は、自パートの音を頭の中で鳴らして関係性をつかむのも有効

（例 T1B2 が歌う→T2B1 は聴きながらも、自パートを脳内で歌う）。

- ・T2 この調のルート音（「A」）とその近くの音で進行する小節で、音程が下がっている音がある。

このメロディラインは、強く意識していないと音が下がってくる。難しいが和音の軸となるパートなので、**1 音 1 音を下から支え上げて、少し高めを意識して出すことが重要。**

4 小節の「A」 5 小節 の「A」 9 小節の「C これは、前の小節で下がることの影響。」

10 小節「G これは A から半音下がるだけが下がりすぎる」

24 小節と 25 小節の「A」のロングトーンは正しく歌いだし**途中からも下がらない**よう踏ん張る。

- ・全パート 音程が低めの傾向があり要注意。特に後半は疲れて萎えて音が下がりがち。
- ・B1B2 「uh」「oh」「ah」は、ブザーのような「音」は NG。柔らかく縦の「声」で。
- ・B1 は音域的に、特にオペラ歌手のように気取って歌ってほしい。その方が音程もとれるようになる。
- ・B2 低音パートとして、上パートを乗せるつもりで朗々と。ただしメロディはきちんと聞いて寄り添うこと。
- ・全パート 臨時記号がついた音符について：和音の響きを楽しむ、次の音に近い方に音程を寄せる。
その調の音階の音ではない音。それだけだと不協和音のように感じるが、和音の響きを楽しむことを意識すると音がとりやすい。あえて強調する感じ（おいしい音だぜ）をだすとうまくはまる。
また、臨時記号のついた音は、次の音に行きやすくするため、次の音に近い方に音程を寄せるとうまく響く。（例： #C→D：#C は D 寄りの少し高め。 ♭A→G：♭A は G 寄りの少し低め）。
- ・この曲以外の難しい曲でも音がとれている、これは、頭の中で楽譜の個々の音ではなくメロディ含め曲の全体像をイメージできているから。そうした感覚で覚えて繰り返し練習すれば音は取れていく。
- ・日本語の歌詞でも口は縦に。口が横だと音程があっていても砂を嚙んだようなざらついた音になる。

＜個別事項＞

- ・イントロは、uh oh ah uh 、幽霊の登場曲ではなく浜辺に寄せては返す波をイメージして。
イントロでテンポと音程が決まる。B1B2 責任重大。
- ・1 小節 B2 「uh」が低い音なので、「ううう」となるとうめき声。「o」に近い「u」でエレガントに。
- ・3 小節 T2 「ah」の 2 分音符の立ち上がりをしっかりと。
B1 「ah」の 2 分音符「E」はしっかりと立ち上がり、伸ばしている間に下がらないように。
3,4 拍「D」「#F」「E」の音程を正確に。
4 拍目は 4 分音符の長さをしっかり伸ばす（T1T2B2 の動きを支える）
T1 「Ah」は高温で突き抜けるので、（甲子園の）サイレン「音」ではなく、優しく丸い「声」で。
2 小節「Oh」から口をほとんど変えない（開かない）意識を持って（発声練習と同じ）。
4 拍は T2 とユニゾン。「C A」にしっかりと下がる。
B2 1 拍目「C」が低くならないよう。
4 拍裏の「C」がブレスで消えないよう。息が続かないなら、1 拍目にブレスする手もある。
- ・4 小節 B1 1 拍目は B2 とユニゾン「D」まできちんと下がるように。（3 小節 4 拍目「E」から）
T1 2 拍目「A」が半音近く低い。
- ・5 小節 全パート「な」の発音。出だしなので特にエレガントに縦に縦に。
- ・6 小節～ B1 同じ音の進行では、同じ音を続けるのではなく、一音一音を新たに出し直す意識を持

って。そうしないと推進力がなくなって**どんどん音程が下がってくる**。

T2 音程は近いが、上下の音符の間をペロツと舐めているみたいで上がり/下がりの幅が狭い。

7,8 小節は、調の根(ルート)音「A」を軸にしたメロディ構成。これがずれると全体が崩れる。

丁寧な音程を。(T1 とは、長三度の和音が多いので比較的合わせやすいはず。)

・10 小節 B1 3,4 拍「てな」の半音の幅「#G ♮ G」が狭い。また、ここは別単語なので繋げない。

4 拍目「な: ♮ G」が和音の肝。次の「れ:F」に行くべく誇張して出すとおいしい音になる。

B2 2 拍目「なれ #D」は下がりすぎない。一方 11 小節 1 拍目「れは D」は下げる。

T2B1 3 拍目「て G」は同じ音。T2 は下がり切れてない、B1 は上がり切れてない。

4 拍目は「A ♮ G」と2度でぶつかっている。互いにつられないように。

・11 小節 T2 「なみにい」は「AABB」。4 拍目「にい B」は、意外に高いと意識して。20 小節も同じ。

全パート ブレスは単語の切れ目。「なみに」と「いくつき」の間。

・12 小節 T2 2 拍目「つ G」はしっかりと高目に出す。

全パート 「く」「つ」の発音。母音の「う」で口の中が狭くなっているのか、浅い声。口腔は「お」の形で、唇だけすぼめると縦の「う」になるはず。

・12 小節 他 B2 下がっていくところは支えになるようしっかりと響かせて。

・13~17 小節

全パート ソロのメロディを頭の中で奏でながら伴奏することで、全体がまとまってソロが乗られる。

T1 17 小節 3 拍目は表打ちに変わるのに注意。

T2 17 小節出だしの「C」が低い。

17 小節 4 拍目の 16 分音符の表現を優先し絶対に落とさない。

B メロの入りに盛り上げてつなぐのに重要。ブレスは 3 拍目を犠牲にしてもいい。

4 拍から 18 小節「ABCD」の後は「C」。「E」に行きたい気持ちはよくわかるが「C」

B1 15 小節最後の 8 分音符は「E」に下がってすぐ 16 小節「A」に行く。

16 小節の入りは、前 3 小節と違い**休符なしで入る**。「んぱーぱ **ぱー**ぱぱぱぱー」

・16-17 小節 全パート スラーでつながっている「hum」は「hu—m」。「humhum」と刻まない。

・17 小節 T2 最初の「C」が低い。

・18 小節~ T1 メロディ担当なのでしっかり。

・20 小節 B2 1 拍目「♮ D」はしっかりと下がる。

・24,25 小節 **全パート 24 小節 Uh～から転調する意識を持ってプレスして移行する。**

ここから転調する意識でプレス

・24,25 小節

B2 全体のベースになるので頑張って。特に 25 小節の「 $\flat$ E」が肝。転調につながる出だしの音。

24 小節の 3-4 拍目「D」がタイでないことに注目し、4 拍目裏「D」から転調開始と考える。

25 小節 「 $\flat$ E-D- $\natural$ C-A」が決まらないと転調が崩れる。4 拍目「A」は下がりすぎない。

B1 24 小節 2 拍目の裏「 $\natural$ G」は次の音の「F」につながるよう低めで。

4 拍目～25 小節 2 拍目までは同じ音「 $\natural$ F」をキープ。

25 小節 1 拍目の B2「 $\flat$ E」とのぶつかりを感じると転調しやすいが、そのあと B2 の動きにつられて下がらないように注意。

「 $\natural$ F」→「 $\flat$ E」→「 $\natural$ F」は音の幅は意外に広いのでしっかり降りてしっかり上がっていい音（音程・音質）を出すことを意識する。

4 拍目「 $\natural$ F」は転調後のメロディの最初の音なので超重要、きちんと上がりきる。

T2 24-25 小節 uh の拍数で迷うならタイをとって 25 小節で言い直しても OK とする。

25 小節 3 拍目からの「A」は転調後のルート音「 $\flat$ B」にうまくつなぐために少し高めを意識。

なお、4 拍目で「F」に下らない。「A $\natural$ G A」の次が「低い D」、これは難しい。

T1 24 小節 「E」は高目を意識。

25 小節 2 拍目「 $\flat$ B」が重要。B2 の「 $\flat$ E」に続いて転調を決める音。

音は取れているが迷いが感じられる。しっかりで大丈夫。

・26 小節～ B2 「lu」は、「lo」に近い[lu]。口腔が狭くてつぶれた「lu」ではなく、「お」のように口の中を大きく開けて唇をつぼめた「lu」。

Lu などの「U」の発音は、「O」のあごの位置を動かさずに唇をつぼむ感じ。あごの上がつた日本語の「う」の発音にはしない。（その分、あいまいな音に聞こえるがそれでよい。）要は縦、を意識。

・28 小節 B1 2 拍目裏「ば」の「 $\flat$ A」は次の音の「G」につながるよう低めで。

・29 小節

T2B1 16 分音符は捨てずにすべてきちんと歌う。盛り上げて B メロにつなげるのに重要。

そのために、①29 と 30 小節の間でブレスしない（前後のどこかの切れ目でブレスしておく）

②uh — — — ではなく、uh uh uh uh とマルカート気味に粒を立てる を意識。

★★なお、T2 は、17 小節の 4 拍目の 16 分音符についても同じ意識で対応。

T2 後半の音が上がり切れていない。

・30 小節～ T1B1 この 2 パートがハモの軸。

・31 小節 全パート「ば」の後でブレス。

B2 2 拍目「 $\sharp$ E」は次の音の「F」につながるよう高目で。

B1 4 拍目「た $\flat$ A」は次の「ぎ G」に寄せて低めに。

・32 小節 全パート ノーブレス。

B2 音程を丁寧に。

・33 小節 全パート ブレス V は「なみだ」と「お」の間。ただし、「だ」でブツツと切らないこと。

○「なみだあ V お」 ×「なあみいだあ～お」

・34 小節～ 全パート ノーブレス。

T2B1B2 主旋律（T1）との関係性でどこを歌っているか分からないと音は取れない。

・35 小節 全パート「おじお」の後でブレス。

B1 「おじ」の「 $\sharp$ E」は正確に（「F」に近い意識で高めに）。

・36 小節 T2 4 拍目「かく」の「 $\sharp$ B」はすごくよかった。もう少し高めのほうが明るい和音になる。

B1B2 8 分音符でどっしりと重厚なリズムを刻む（特に B2）

・37 小節 フェルマータの後ろは、倍のリズムくらいゆっくり。

・37 小節 B2 2 拍目裏「 $\sharp$ E」は次の音「F」に寄せて少し高めに。